

令和7年度 学力向上を図るための全体計画 (様式1) 小4 1 練馬区立光和小学校

<関係法令等>

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領等

「光和小学校・建学の精神」

「光和」の由来

学んだ叡智を人生に活かし、根強くたくましく発展する。

光和の子ども<学校の教育目標>

○考え、表現する子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

<願い>

- ・児童の実態や願い
- ・教師の願い
- ・保護者の願い
- ・CSや地域の願い
- ・PTA運営委員会での意見等

各教科等の指導の重点

(国語) 語彙を増やし、自分の考えや意図などを伝える力を伸ばすため、個に応じた指導の充実と交流を図る。

(社会) 地域素材の教材化やICTを活用した資料提示を工夫し、体験的な学習と問題解決的な学習指導を展開する。

(算数) 児童が考える楽しさを味わえるよう少人数指導を工夫し実践する。

(理科) エコスクールとしての校舎の施設や校庭環境の教材化を推進し、基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の充実を図る。

(生活) 具体的な活動や体験を通して自他との関わり、自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自立への基礎を養う。地域との関わりを深める。

(音楽) 豊かな表現の基礎的な能力を育て、その定着と個に応じた指導の充実を図る。

(図画工作) 造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる。

(家庭) 日常生活に必要な基礎・基本の力の定着と個に応じた授業の工夫を図る。

(体育) 芝生コートなどの校庭の特色を生かし、活動の場を工夫し、より多くの運動学習量を確保した授業に取り組む。その中で体力の向上や児童の工夫する力を伸ばし運動に親しみ資質や能力を育てる。また、食事や栄養、健康などについての関心を高め、明るくたくましく生活する態度を育てる。

(外国語・外国語活動) 外国語(英語)に親しむために、話すこと・聞くことを中心にゲームなどをしながら楽しく学べるように工夫する。すすんで外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

学校経営計画

「みんなが誇りに思う学校」

「すべての教育活動は子供たちのためにある」を常に念頭に置き、「受けとめる・価値づける・方向づける」指導の共通理解を図り、子供たち一人一人のよさ・可能性を伸ばすとともに、豊かな心の育成に努める。

【目指す学校像】

- ①明日が待たれる学校
- ②確かな学力が身に付く学校
- ③家庭と地域と学校が連携した学校
- ④安全・安心な学校

【確かな学力を身に付けさせる教育の推進】

- ①指導計画に基づく意図的・計画的な授業の実施
- ②指導体制
- ③ICT教育の推進
- ④学習の基礎・基本の定着
- ⑤読書活動
- ⑥学力向上月間
- ⑦学力補充教室
- ⑧校内掲示
- ⑨家庭学習の推進

～各教科の知識と言語活用力を高める指導の充実～

「書く」に課題が見られる。各教科の指導において、書く目的や意図を明確にさせた上で、文章や図表などを用いて書かせたり、中心的な内容と付加的な内容に分けて書かせたりするなどの指導の充実を図っていく。

児童に身に付けたい能力を達成できるように、カリキュラム・マネジメントを充実し、教科等横断的な視点を意識して指導計画を立てる。

【特別の教科 道徳】本年度の指導の重点

- ・児童の道徳性育成を図るための道徳授業の質の向上「話し合い」の充実
- ・各教科領域等の学習、学校行事や生活における関わり合う活動の充実
- ・組織的な指導力と教師一人一人の資質と能力の向上

【特別活動】本年度の指導の重点

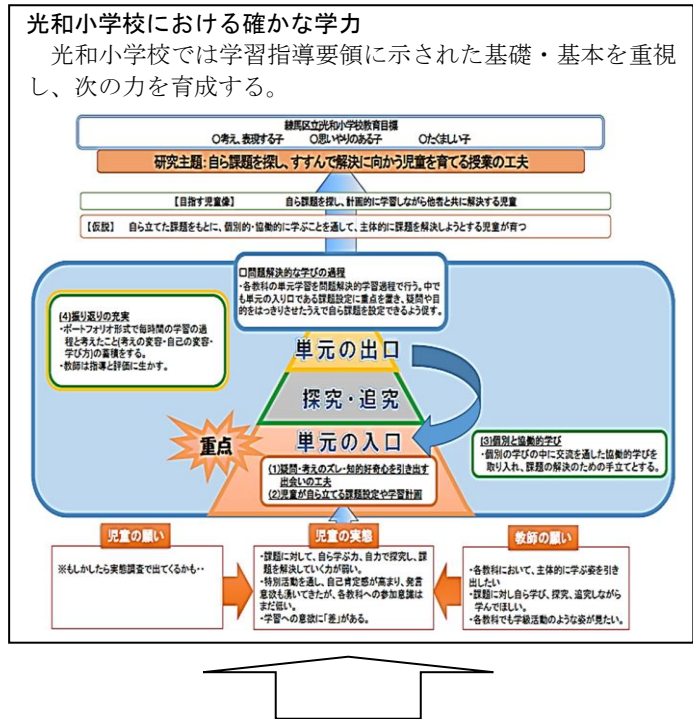
- ・個々を大切に、助け合い励まし合う、温かい人間関係を培う。
- ・児童相互のふれあいを大切に自治的に実践する意欲的な態度を養う。
- ・行事や集会活動の在り方を工夫し、児童が主体的に活動できる場を設定する。

【生活指導】本年度の指導の重点(抜粋)

- ・いじめ、不登校、虐待、問題行動等の未然防止、早期発見早期解決に努め、関係機関と協力する。
- ・「光とスタンダード」を基に、学校全体で統一指導を行う。
- ・家庭や地域社会との密接な連携を保ちながら、学校内外の生活における安全確保を図る。

【進路指導】本年度の指導の重点

- ・児童一人一人の能力や適性を正しく把握し、自己の将来に希望や生きがいをもてるよう支援する。
- ・学校生活の中で、自己のよさや役割について意識化させる生き方指導に努める。さらに6年生については中学校区別研究協議会や小中連絡会、小中の交流等を通して中学校との連携を図り児童の進学への意欲向上を図る。



【総合的な学習の時間】本年度の指導の重点

【目指す児童像】

- ・協働しながら、課題解決に主体的に取り組む児童
- ・地域への愛着を深め、地域の活動に参加していこうとする児童

育てようとする資質や能力及び態度

- 協働して解決する力
- 課題設定
- 収集・整理分析
- まとめ・表現
- 自分の生活を見つめる力
- 地域への愛着
- 自己の生活の在り方の見直し

本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫・教育環境	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の工夫
・思考ツールを活用して考えを可視化し、話し合いによって考えが深まるような学習を重視する。 ・体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・チームティーチングや習熟度別指導の工夫をする。 ・発展的な学習・補充的な学習を開発する。	・ICT機器の活用を推進し、校内ネットワークを活用する。 ・毎週(火・金)、朝読書の時間と計算力アップタイムを実施する。 ・専科・固定時間割を工夫して習熟度別やT T指導を実施しやすい環境を整備する。 ・学年コーナーと教材室を整備し、活用する。	・校内研究では、特別活動の研究を行い、各教科、領域の年間指導計画の見直しを図る。 ・低中高専科分科会がそれぞれに、課題解決のための提案授業を行う。 ・初任研・2・3年次研、中堅研・教育実習などの場を活用して授業研究を進める。	・一人一人のよさ、強みなどを把握する。 ・算数科や体育科などこれまでの研究の成果を日常的な評価活動に生かす。 ・自己点検シートや授業観察シートを用いて、お互いの授業の改善を図る。	・学校公開(道徳授業地区公開講座)の保護者の感想や外部評価などを授業改善に活用する。 ・道徳授業地区公開講座を実施する。 ・家庭学習の習慣化を図る。	・課題改善カリキュラムの内容を意識した学習指導を展開し、中学校区別協議会にて、生活指導や学習指導の現状や課題を共有して、児童・生徒の指導に活用するようにする。